

調査研究に関する研究計画書

提出年月日		令和3年6月29日	部名	微生物部	
調査研究課題		環境中からの魚への粘液胞子虫類の感染リスク調査			
調査	主任研究者	福留智子		研究区分 (小分類)	
	その他の研究者	山下祥子、保田和里、矢野浩司 三浦美穂、吉野修司、杉本貴之			
研究体制	調査研究期間	令和3年度～令和5年度(3か年間)			
	調査研究費	予算項目	令和3年度	令和4年度	令和5年度
		国費	千円	千円	千円
		県費	50千円	50千円	50千円
その他	千円	千円	千円		
合計	千円	千円	千円		
調査研究の目的		<p>刺身などを喫食し、数時間で一過性の嘔吐と下痢を発症する粘液胞子虫類の事例が全国的に発生している。県内においても粘液胞子虫類の一種である<i>U. seriolae</i>が原因と考えられる事例が発生しており、当研究所において平成29年度から令和2年度にかけて市場に流通している生鮮魚の実態調査をおこなってきたところである。環境中からカンパチが<i>U. seriolae</i>に感染する要因について、魚と交互宿主となっている環形動物における粘液胞子虫類の保有状況について調査を行ったが期間が限定的であったため、本研究で継続的な調査を行う。また、海水からの粘液胞子虫類の検出についてこれまで検討を行ったが、回収率が低いことが課題であった。海水からの粘液胞子虫類の検出法の確立を目指し、環境中からの粘液胞子虫類の感染リスクを把握することで食中毒対策の一助とする。</p>			
調査研究内容	研究の実施計画	<p>粘液胞子虫類は虫自体が接着しやすい特徴があり、使用する洗浄液などの検討を行い、検出法に最適な方法の確立を目指す。 環形動物については、種苗の輸入元である中国から輸入されてくる環形動物を中心に調査行う。</p>			
	技術手法	リアルタイムPCR、コンベンショナルPCRを用いた遺伝子検出			
	年次計画	<p>【令和3年度】 ・環形動物における粘液胞子虫類の保有調査 ・海水からの粘液胞子虫類の検出にむけた洗浄液などの検討と検査法の確立 【令和4年度】 ・海水からの粘液胞子虫類の検出を1回/月継続的に実施 【令和5年度】 ・その他環境由来の感染リスクについての調査(餌など)</p>			
調査研究の効果等 (行政効果・県民ニーズへの波及効果等)		<p>病原性が明らかになっていない<i>U. seriolae</i>に対し、感染経路など新たな知見を得ることができる。 積極的に保健所や水産部局に情報提供を行っていくことで、県独自の食中毒対策につながる。</p>			
備考					